

万葉集の謎を解く

―額田王の巫祝性をめぐって―

中西 進

令和七年三月八日／二松学舎大学

一、原文

莫囂圓隣之 大相七兄爪湯氣 吾瀬子之 射立為兼 五可新何本（巻二―九）

二、従来の訓読

紀の温泉に幸しし時に、額田王の作れる歌

莫囂圓隣之 大相七兄爪湯氣 わが背子が い立たせりけむ 厳櫓が本

三、従来の訓読（初・二句）

夕月の 仰ぎて問ひし（仙覚抄）

夕月し 覆ひなせそ雲（代匠記）

三諸の 山見つつゆけ（古義）

紀の国の 山越えてゆけ（考）

紀の国の 山見つつゆけ（村田春海）

竈山の 霜消えてゆけ（玉勝間）

真土山 見つつ飽かにと（檜婦手）

三栖山の 檀弦はけ（口訳）

まがりの たぶし見つつゆけ（私注）

静まりし 浦波騒く（注釈）

坂鳥の 覆ふな朝雪（糸川定一）

夕月の 影踏みて立つ（伊丹末雄）

み吉野の 山見つつゆけ（尾山篤二郎）など三十余種の試訓がある。

四、語釈

莫囂 騒がしくないこと。のち鎮定將軍の称。「王命莫囂易為率室 城黄池城雍丘」（清華簡

『繫年』二十一章 簡王七年）

圓隣 圓Ⅱ「マ」の訓仮名は他例がない。

莫囂圓隣は、易の卦によって得た判断か。

大相 補佐役のこと。

「大相上承大義 而啓治道」（前漢・賈誼『新書』補佐）

七兄 「漢淮南厲王 常謂上大兄」（清・顧炎武『日知録』雜論排行）

日子人之大兄王、大兄之去来穂別尊、勾大兄皇子・箭田珠勝大兄皇子・押坂彦人大兄皇子・古人大兄皇子・中大兄皇子の七大兄。

吾瀬子 中大兄皇子をさす。

五可新 古代ヨーロッパの聖者ドルイドは櫓の木を神樹とした。神事は死者を喚起すること。

五、私訓

鎮まりし 大君ぞ逝け わが背子が い立たせりけむ 厳櫓が本

六、現代語訳

冥界に鎮まる大君こそ、遠く旅立たれましたが、私の愛しい方がお立ちになられたでしょうカシの、この聖なる木蔭よ。